

なぜ コンタクトの定期検査は必要か？

コンタクトレンズは眼鏡と違い直接角膜の上に装着させるため、不注意な装用（例えば、長時間装用・不規則装用・装用のまま就眠など）や取り扱いによっては、角膜に障害を生じることがあります。仕事上時間がとれない、コンタクトレンズにも慣れてきた、定期検診なんてめんどうなど理由はさまざまですが、定期検診にルーズになっている人が多いようです。

定期検査を受けることにより、角膜の障害を早く見つけ適切な処置や対策を行うことができます。また、レンズ装用による視力の変化やコンタクトレンズを上手にかつ安全に使いこなしているかをチェックしたりします。

例えばコンタクトという異物を初めて入れた人は刺激でいつもより涙が多くです。そんな時合わせたレンズはいわば未完成レンズなのです。涙は目のお掃除やさんであると共に近視の役目も少しだけしてくれるのです。コンタクトは涙の上ののっています、コンタクトを初めて入れた時の涙の量と慣れてきた時の涙の量はだいぶ違ってきます。その涙の量の差のためコンタクトに慣れてきた時、少し弱めのレンズになる事があります。せっかく作ったレンズも目に合わなければ台無しです。定期検診の間隔は各コンタクトレンズの種類によって違いはありますが、いずれのコンタクトレンズでも装用1週間後、1ヶ月後の検診は当然のことです。その後は医師の指示に従って3～6ヶ月に1度は検診を受けるようにしましょう。絶対安全なコンタクトレンズなんて無いのです。これらの角膜障害を起こさないためにも必ず定期検診を受けましょう。

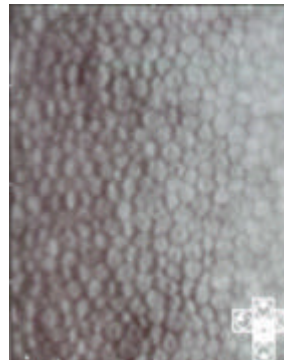
コンタクトレンズによる主な目の疾患



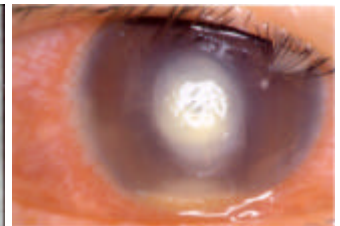
巨大乳頭結膜炎
コンタクトレンズと接触
することによるアレルギー
ー反応で肉芽が増殖する



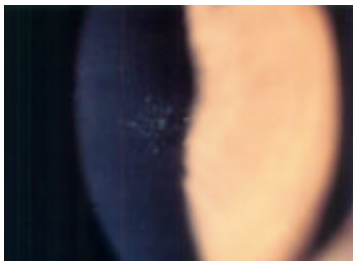
角膜内皮細胞障害
細胞が大きく正六角形が少なくなる



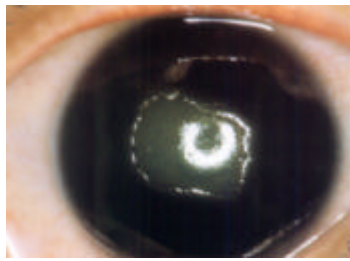
正常角膜内皮
きめ細かな細胞が
並ぶ



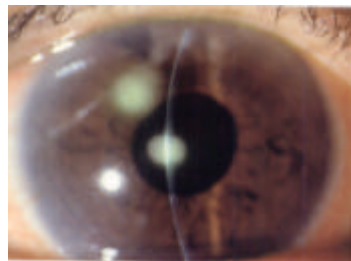
汚染されたコンタクト
を使ったことによる
細菌性角膜潰瘍



過剰装用による角膜ピラ
ン、痛みが強い



ソフトコンタクトに点眼
薬の防腐剤が吸収され起
きた薬物性角膜腐食



長期装用ソフトコンタクトレ
ンズ患者に見られる角膜上皮混濁
(Tight Lens 症候群)